２０２３年5月２９日

リ・ジェネレーション株式会社
代理人弁護士　戸田　裕典　先生
同　　　　　　鈴木　多門　先生

東京都千代田区大手町一丁目１番２号
大手門タワー
西村あさひ法律事務所
株式会社ナガホリ代理人　弁護士　太　田　　洋
同　佐々木　　秀
同　山　本　晃　久
同　瀬　川　堅　心

回　答　書

前略　当職らは、５月２６日、リ・ジェネレーション株式会社（以下「貴社」といいます。）の代理人である貴職らより受領した同日付け「質問状」（以下単に「質問状」といいます。）につき、株式会社ナガホリ（以下「当社」といいます。）の代理人として、ご質問頂いた各事項について以下のとおりご回答申し上げます。

また、当社と致しましては、当社の質問及び貴社のご回答そのものを公表することで、当社の解釈や要約の正確性の問題を惹起せずに情報を開示することができることから、投資家の投資判断に重要と思われる事項として、貴社とのやり取りについても継続的に開示しています。貴職らからも、２０２２年7月１４日付け「要望書」以降、当社ホームページでの開示をご要請頂いており、このような公表についてはご了承頂けていると理解しておりますので、質問状及び本書面に関しても、従前と同様に当社が公表致しますので、予めご承知おきください。なお、念のため付言いたしますと、これらの開示は、東京証券取引所における適時開示としてではなく、当社ウェブサイトによる任意開示として行っております。

以下、特に断りのない限り、当社のこれまでの書面において使用した略語を本書面においてもそのまま使用させて頂きます。また、本書面につきましても、引き続き、ファクシミリにて送信した書面を正式書面とさせて頂きます。

貴社は、「①ＩＲＪとの間でアドバイザリー契約を締結するに至った経緯（特に、ＩＲＪを貴社に紹介した人物）、そして、②当社が貴社株式の買い集めに当たり『ウルフパック』戦術を用いていると指摘した人物及びその際に同人が行った説明内容についてご説明いただくとともに、③念のためＩＲＪに対して本件においてマッチポンプと評価される事

実が存在しないか確認を行い、その結果についてご回答いただくようお願い申し上げます」として当社に質問をされていますが、そもそも、「ウルフパック戦術」については、既に株式会社三ッ星の株式を複数の株主が同時期に買い上がった事案においてもそのような指摘がなされていたところ[1]、まさに本件でも貴社その他の複数の株主らが、ほぼ同時期に当社株式を（当社株価が過去１０年来なかったほど急騰する中で）急速かつ大量に買い集めていたものであって、同様に「ウルフパック戦術」との評価がなされるのは何ら不合理ではありません[2]。また、「マッチポンプ」の意味するところは定かではありませんが、貴社の質問状の文脈からすれば、本件では、仮にＩＲＪ様側のどなたかが貴社に対して「ウルフパック戦術」を指南し、その結果として貴社が「ウルフパック戦術」を実行したのに対して、ＩＲＪ様が当社のアドバイザーとして当社に対応方針をアドバイスするような場合にそのように評価されることになると理解しておりますが、そうであれば、本件で「マッチポンプ」と評価される状況にあるかどうか（貴社がＩＲＪ様の側のどなたかからそのような戦術の指南を受けられたのかどうか）はまさに貴社自身が熟知されているはずであって、当社にご質問されるのは筋違いと言わざるを得ません。それゆえ、貴社からの当社に対するＩＲＪ様に関するご質問について、当社としては回答の必要がないものと思料いたします。

なお、当社は、各アドバイザーからのご意見も踏まえて、貴社による当社株式の買い集めに当たって「ウルフパック戦術」が用いられている疑いがあるものと判断しております。

また、貴社からの質問状を受け、念のためＩＲＪ様に対して、本件において「マッチポンプ」と評価される事実が存在しないか確認を行いましたが、ご指摘のような事実はない、との回答でした。

本件のご連絡に関する一切は、引き続き当職らが対応することになっておりますので、本件に関する貴社からのご連絡は、全て当職ら宛として頂けますようお願いします。

草々

1 週刊新潮２０２２年８月１１・１８日号６６－６７頁「株式市場を赤く染める『中国系仕手集団』“ウルフパック戦術”の猛威」と題する記事参照。

2 現に当社の事案について「ウルフパック戦術」が用いられていると指摘するものとして、例えば、２０２３年４月１０日付け日本経済新聞朝刊１５頁の「『不意打ち』買収に規制の隙」と題する記事、梅本剛正・甲南大学共通教育センター教授のブログ「金商法についてあれこれと」２０２３年３月１５日付け記事、日経ビジネス電子版２０２３年３月６日付け「上場会社の経営権狙う『群狼戦術』　５％ルール見直しでどうなる」と題する記事、ダイアモンドオンライン２０２２年８月２７日付け記事「宝飾会社ナガホリ『株価急騰の裏側』、不動産取引を巡り不可解な動きも」と題する記事など参照。